

広島県地震被害想定調査検討委員会（第1回） 議事要旨

1 検討会の概要

日 時 令和6年5月20日（月）15時30分～17時20分
場 所 広島県庁 北館2階 第1会議室
出席委員 別紙出席者名簿のとおり。（全委員出席）

2 議事要旨

（1）広島県地震被害想定調査検討委員会について

事務局から、本委員会の目的、構成等について説明を行った。
委員の互選により、畠委員を本委員会の委員長に選出した。

（2）地震被害想定調査の検討方針

事務局から、調査の基本的な考え方、前提等について説明を行った。

（3）想定地震動の設定

事務局から、想定の対象とする地震について説明を行った。

【委員からの主な意見】

○現時点で国の評価の対象となっていないが、最新の知見で活断層とされているものについても、地震動を想定すべきである。

（4）地震動予測計算

事務局から、地盤モデルの作成や地震動予測計算、液状化・土砂災害の計算の考え方等について説明を行った。

【委員からの主な意見】

○震度から地表最大加速度等を求めるという提案となっているが、波形から直接算出してもよいのではないか。

○地震に伴う土砂災害に関する検討項目について、どのような考え方で設定するかを整理すべきではないか。

（5）津波浸水想定

事務局から、津波シミュレーションモデルの作成と津波浸水想定のための基本的な考え方等について説明を行った。

【委員からの主な意見】

○地震動の解析において断層が連動するケースを考慮するのであれば、津波についても連動するケースを考慮すべきではないか。

- 液状化等について、津波による被害を算出する際にも、例えば避難する際に住民の歩行速度が低下する等、その影響を考慮すべきではないか。
- 能登半島地震においては、海底地滑りにより想定よりも早い段階で津波の影響が出るといったことがあったので、広島県においても同様のことが起こりうることを注意喚起すべきではないか。

(6) 被害想定、全体スケジュール等

事務局から、被害想定に係る基本的な考え方や全体スケジュール等について説明を行った。

【委員からの主な意見】

- 平成30年7月豪雨において、土砂災害による道路閉塞等により人流・物流が止まり、影響が長期化したという事例があったため、地震被害想定においても、地震発生直後のみではなく、数週間後、数ヶ月後といった長い時間軸で考えることが必要ではないか。
- 被害想定について、市町単位で定量化した評価を行うと説明があったが、場合によっては旧市町村単位で評価をした方が、使いやすいデータになるのではないか。
- 道路における被害想定について、単位長さ当たりの被害延長で評価を行うと説明があったが、その道路のネットワークの強さ弱さを加味した評価ができないか。能登半島地震で顕著に表れた部分ではあるが、迂回路の無い道路と、一定距離毎に迂回路がある道路では、閉塞した時の影響に違いがある。

以上